

たきかわ環境フォーラム「第一出島川生物調査」を実施しました



たきかわ環境フォーラム代表 平田剛士
事務局長 越後弘

073-0034 滝川市空知町 2-6-31 滝川市森のかがく活動センター内
電話/ファクス 0125-24-2447 (越後)
<http://ecoup.hp.infoseek.co.jp/index.html>

「ふるさとの自然再発見！プロジェクト」を進めている当フォーラムは2010年7月26-27日、初めての「第一出島川生物調査」を要領で実施しました。

第一出島川は、三日月の形をした周囲約2キロメートルの沼。かつて石狩川の一部でしたが、河川改修にともなう蛇行の直線化によって、滝川市江部乙町西9丁目の石狩川左岸に沼（三日月湖）として取り残された「河跡湖」です。その後、周囲に植生が繁茂するなどし、現在ではガンカモ類をはじめとする野鳥類の重要な居留地となっているほか、魚類も多数生息している考えられます。

しかし、これまで生息調査や測量などは行なわれておらず、詳しい実態は不明です。そこで、現時点での自然環境を把握するために、生物調査事業を計画しました。

1日目（26日）午後、沼北西部の7カ所の沼底に、「ドウ」と呼ぶ捕獲装置を各3～5台ずつ設置。ドウは、間口25センチ、高さ40センチほどの箱形をした網製の漁具で、上面と底面に漏斗状の誘い込み口がついていて、エサを食べようと誘い込み口から中に入った魚が外に逃げられない仕組みになっています。また沼岸の2カ所に、ゴムボートを使って長さ10メートルほどの「小型定置網」を仕掛けました。

そのまま一晩仕掛け、2日目（27日）午前、ドウや網を上げて、捕獲した数百匹の魚の種や個体数を調べました。おもな確認種は以下の通りです。

モツゴ、タイリクバラタナゴ、ウグイの仲間、ゲンゴロウブナ（以上コイ科）、トミヨの仲間、ドジョウの仲間、ハゼの仲間、ヨシノボリの仲間

このうち在来種はウグイ、ドジョウ類、トミヨ類、ハゼ類、ヨシノボリ類。捕獲数が圧倒的に多かったモツゴ、タイリクバラタナゴと、体長30センチ前後の大型個体が確認されたゲンゴロウブナは、いずれも外来種です。緑豊かで、いっけん生物多様性に富んで見える第一出島川ですが、外来種が多数派を占め、北海道本来の姿とはずいぶんかけ離れた生態系が構築されているようです。捕獲した一部をサンプルに、詳しく分析する計画です。

捕獲調査には市民や夏休みの子どもたち数名も見学を訪れ、ふだんなかなか目にできない水中生物のようすを熱心に観察していました。

今後は文献調査と聞き取り調査をおこない、また秋期には、引き続きフィールドで沼の水深測定と沼岸の植生調査を実施します。

この事業は滝川市の2010年度「未来へつなぐ市民税1%事業」補助金を活用しています。今年度末までに調査結果をまとめて広く公表し、今後のまちづくりや、環境保全策を立案する際などの基礎資料として活用できればと考えています。



ドウで捕獲された小魚類。タイリクバラタナゴが多数を占めた。



生け捕りにした魚を観察する市民たち。



多数を占めたモツゴ（左）とタイリクバラタナゴ（右）。

写真は著作権を放棄していません。必ず「たきかわ環境フォーラム提供」と記載下さい。
トリミングなどの加工はご自由にどうぞ。



第一出島川
(通称・9丁目沼)

1 km
1 マイル

©2010 Google - 地図データ ©2010 ZENRIN - 利用規約